

令和6年度 横浜市外国人意識調査 [概要版]

1 本事業の調査の概要

| 項目 | 内容 |
|--|--|
| ■調査概要 | |
| ・横浜市内の外国人人口は、令和6年4月時点で約12万人となり、今後も更なる増加が見込まれます。市内在住外国人の生活意識やニーズを把握し、市政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、「横浜市外国人意識調査」を実施しました。 | |
| ・調査は、調査票を郵送し、回答はアンケート方式で、住民基本台帳から無作為抽出した満18歳以上の市内在住外国人5,000人を対象に実施し、1,512件（回収率30.2%）の回答が得られました。 | |
| 調査対象 | ・満18歳以上の市内在住外国人5,000人 ※住民基本台帳から無作為抽出 |
| 回収数 | ・1,512件 |
| 回収率 | ・30.2% |
| 調査方法 | ・郵送による無記名調査（郵送またはインターネットによる回答） |
| 調査票対応言語 | ・日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語 |
| 調査期間 | ・令和6年7月～8月 |
| 調査結果の見方 | ・SA:単一回答方式の設問 MA:複数回答(制限なし)方式の設問 LA(制限した質問数):複数回答(制限あり)方式の設問 n:当該設問の有効回答数 ・回答の比率（すべて百分率「%」で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。 したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。 また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。 |

2 調査結果のポイント

回答者属性

- 【性別】女性 51.8%、男性 41.2%、その他 0.6%
- 【年齢】若年層（39歳以下）50.3%、中年層（40～59歳）33.5%、高年層（60歳以上）11.7%
- 【居住区】「中区」（11.6%）、「神奈川区」（11.2%）、「鶴見区」（10.5%）、「南区」（7.9%）、「港北区」（7.5%）の5区で全体の48.7%
- 【国籍・地域】「中国」（33.7%）、「ベトナム」（11.4%）、「韓国」（9.1%）で全体の54.2%
- 【在留資格】「永住者」（27.0%）、「技術・人文知識・国際業務」（12.6%）、「日本人の配偶者等」（4.6%）、「家族滞在」（4.6%）、「留学」（4.2%）で全体の52.8%
- 【日本に来た理由(MA)】「日本文化に興味があったから」（33.9%）、「仕事を探したかったから」（21.2%）、「留学」（20.6%）、「安全・安心な生活が送れそうだから」（20.2%）
- 【日本での居住年数】「5～10年未満」（20.6%）「20～30年未満」（13.5%）、「30年以上」（13.0%）、「10～15年未満」（12.6%）、「15～20年未満」（8.7%）で全体の68.3%
- 【横浜市での居住年数】「1～3年未満」（17.6%）「5～10年未満」（16.9%）、「1年未満」（12.8%）、「3～5年未満」（12.8%）で全体の60.1%
- 【家族構成】「親と子〔2世代〕」（35.7%）「夫婦(パート)のみ」（25.8%）、「ひとり暮らし」（25.4%）
- 【職業】「会社員・公務員・団体職員」（49.7%）「アルバイト・パート」（15.9%）、「家事専業」（9.1%）、「自営業・自由業」（6.9%）
- 【居住形態】「借家（民間アパート・民間賃貸マンション）」（28.6%）「持ち家（マンション・共同住宅）」（19.8%）、「持ち家（一戸建て）」（18.0%）

ことばについて

【日本語以外で日常会話のできる言語(MA)】 「英語」(47.4%)と「中国語」(40.1%)

【日本語を学んでいるか】 「学んでいる」(67.9%)、「学んでいない」(27.8%)

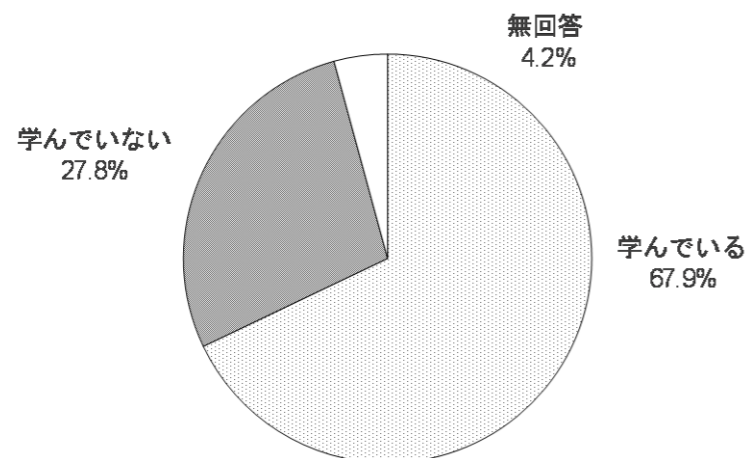
【日本語をどのような方法で学んでいるか(MA)】 「自分で勉強している(独学で)」(46.2%)、「職場(仕事をするとこ)で」(22.6%)、「家族に教えてもらっている」(11.4%)

【日本語を学ぶ目的、目標(MA)】 「(近所・職場等の)日本人とのコミュニケーションのため」(72.8%)、「仕事につくため」(48.6%)、「日本の社会的なルールなどの理解」(43.4%)

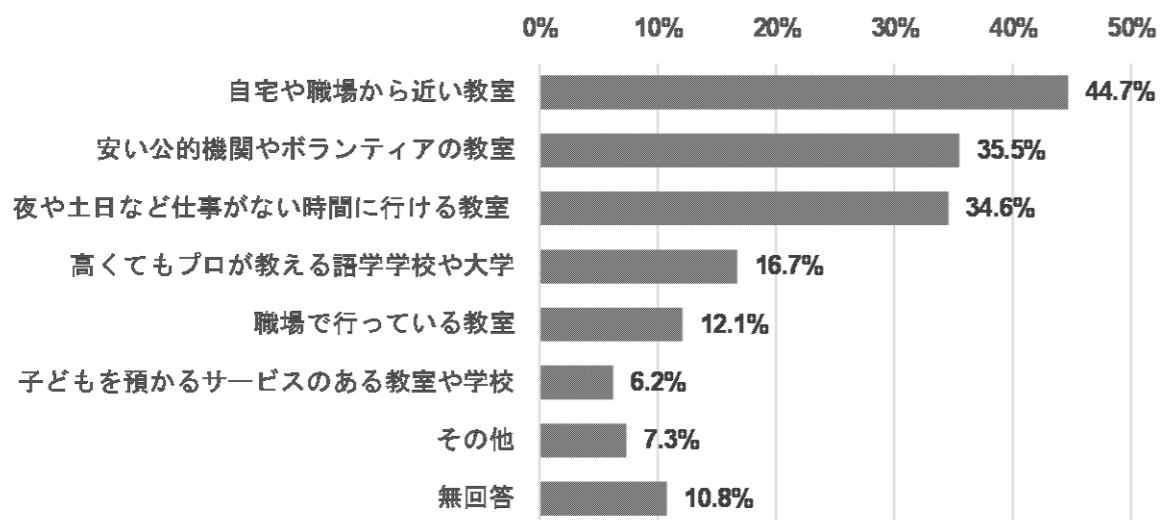
【現在の日本語レベル(SA)】 「日本語を話す、聞くことができる」(87.8%)、「日本語を読むことができる」(85.1%)、「日本語を書くことができる」(79.0%)

【どのようなところで、日本語を学びたいか(MA)】 「自宅や職場から近い教室」(44.7%)、「安い公的機関やボランティアの教室」(35.5%)、「夜や土日など仕事がない時間に行ける教室」(34.6%)

<日本語を学んでいるか (SA) > (n=1,512)



<どのようなところで日本語を学びたいと思うか (MA) > (n=1,512)

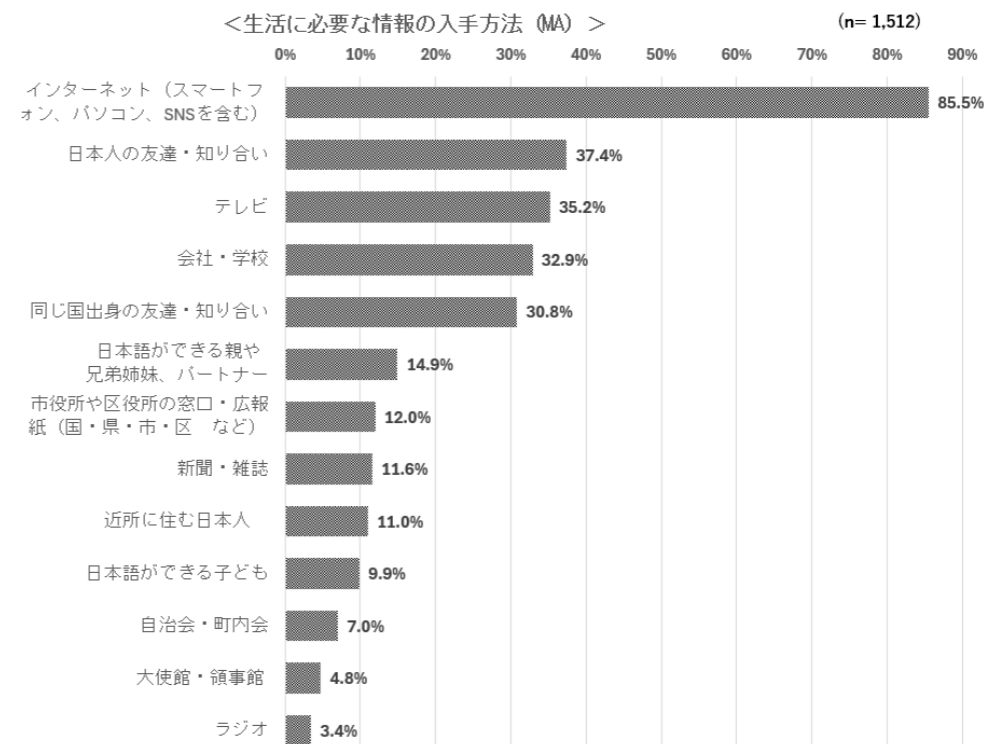


情報入手方法について

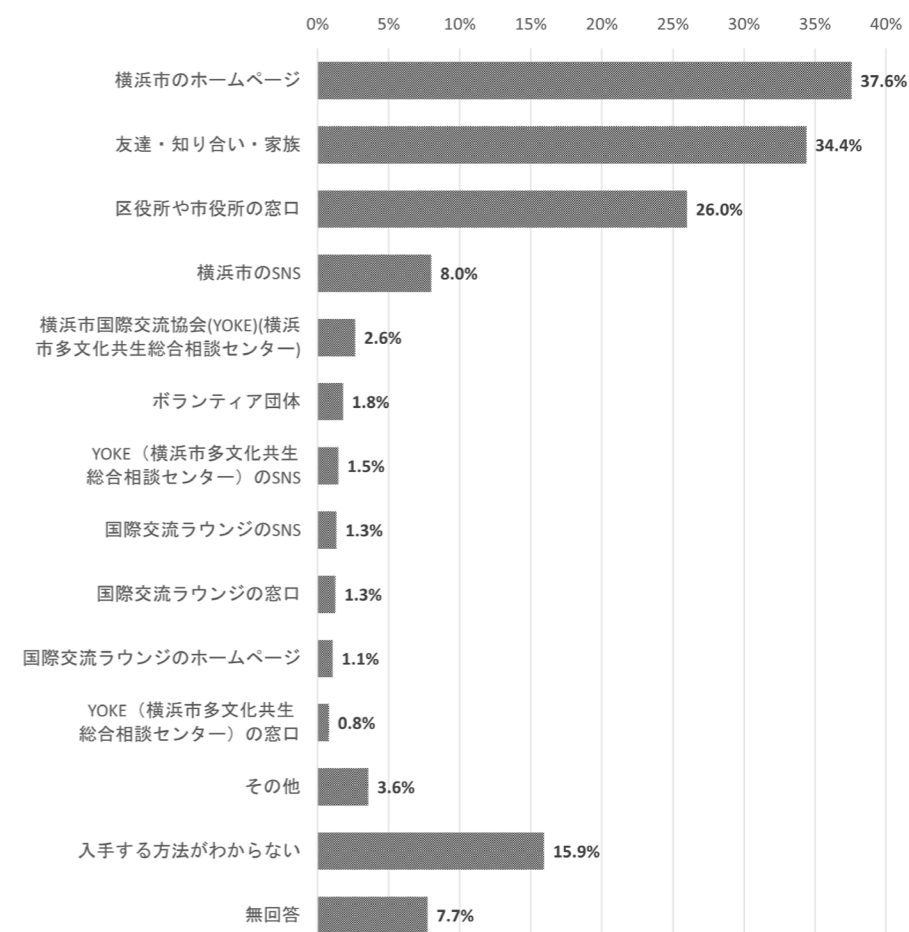
【生活に必要な情報の入手方法(MA)】 「インターネット」(85.5%)、「日本人の友達・知り合い」(37.4%)、「テレビ」(35.2%)、「会社・学校」(32.9%)、「同じ国出身の友達・知り合い」(30.8%)

【インターネットでよく見る情報(MA)】 「ホームページ」(41.8%)、「facebook」(38.8%)、「LINE」(37.8%)

【市役所からの情報の入手方法(MA)】 「横浜市のホームページ」(37.6%)、「友達・知り合い・家族」(34.4%)、「区役所や市役所の窓口」(26.0%)



<市役所からの情報の入手方法 (MA) > (n=1,512)



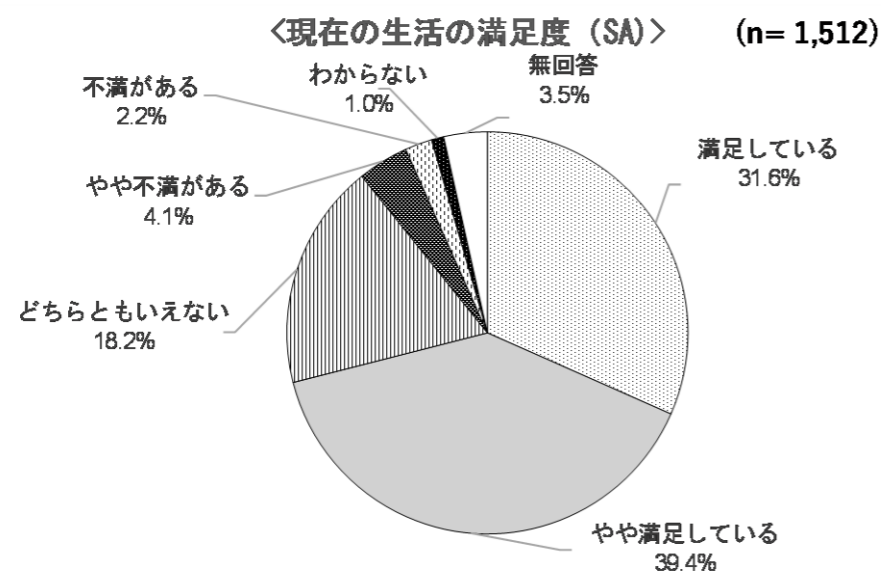
生活の満足度や困っていることについて

【現在の生活の満足度(SA)】「満足している」「やや満足している」と回答した人は71.0%、「不満がある」「やや不満がある」と回答した人は6.3%

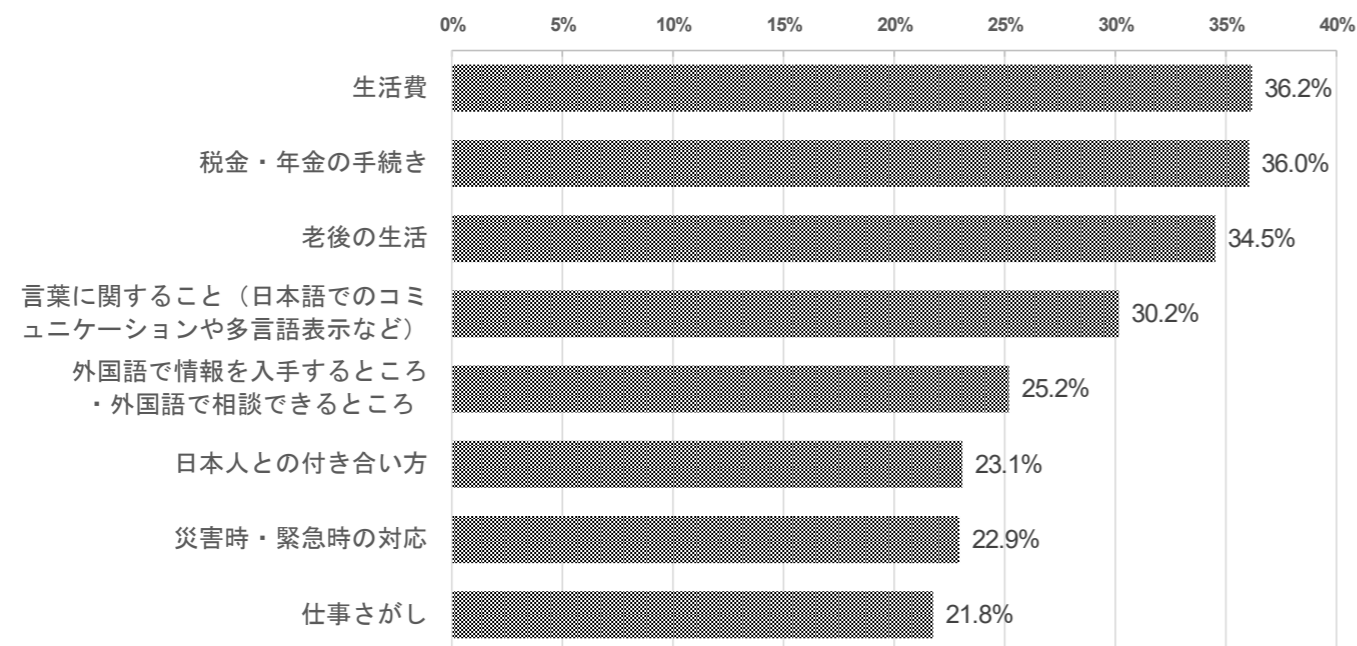
【横浜での生活で、困っていることや心配なこと(MA)】困っていることや心配なことの上位3項目は、「生活費」(36.2%)、「税金・年金の手続き」(36.0%)、「老後の生活」(34.5%)

【新型コロナウイルス感染症の影響で特に困ったと感じたこと(LA(3))】「収入が減ったなど、金銭的な問題に関すること」(27.6%)「自分や家族の感染や予防に関すること」(18.6%)、「母国に帰れなかったこと」(15.8%)

【横浜での生活で困っていることや心配なことがあったときの相談先(MA)】「家族」(46.3%)、「同じ国出身の友達・知り合い」(41.1%)、「日本人の友達・知り合い」(37.2%)、「相談する相手がいない」(4.3%)



＜横浜での生活で、困っていることや心配していること (複数回答)＞ (n*=1,512)



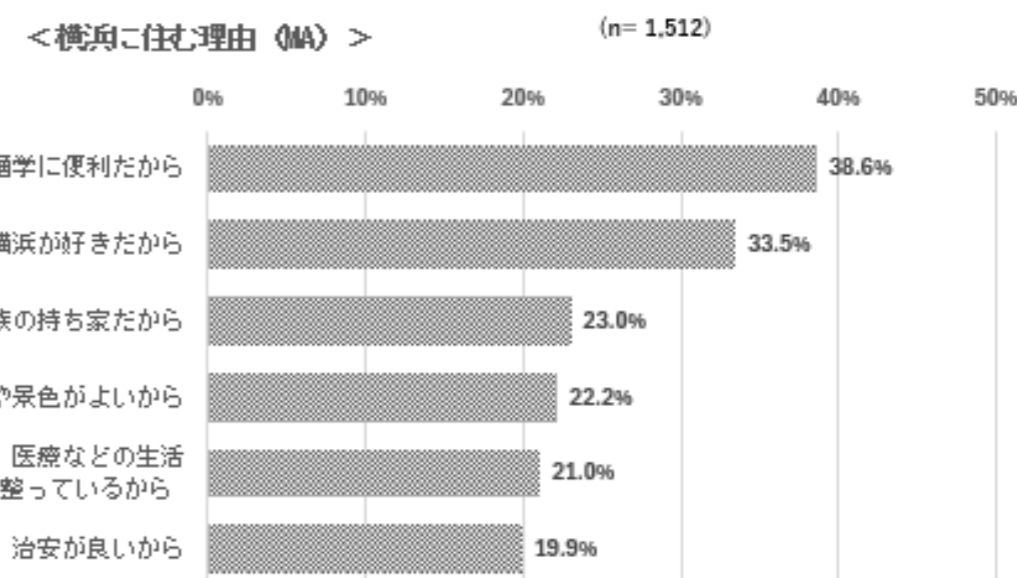
住まいの環境について

【隣近所とのつきあい(SA)】「道で会えば挨拶ぐらいする」(47.8%)、「顔もよく知らない」(24.5%)、「たまに立ち話をする」(13.9%)

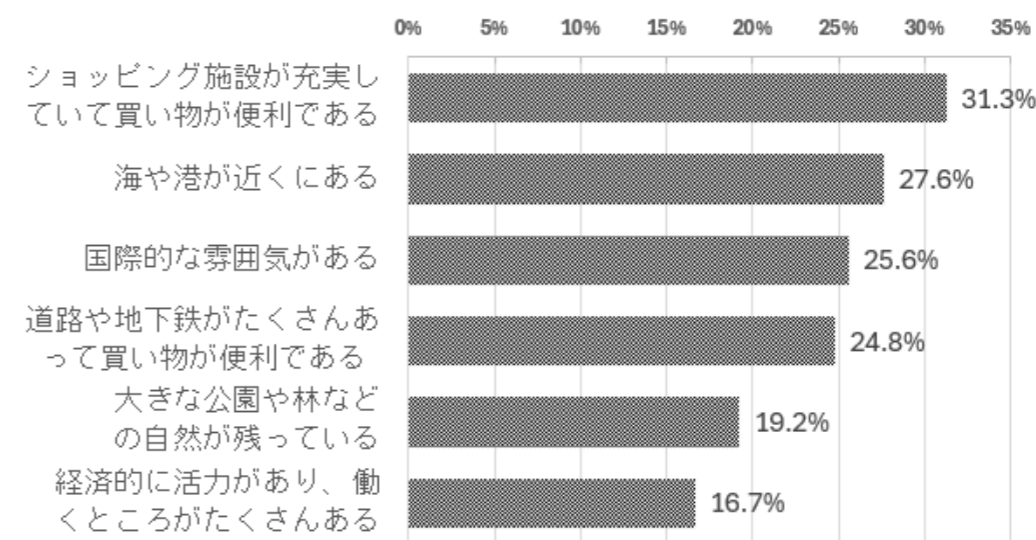
【隣近所とのつきあいの感じ方(SA)】「互いの生活に口出ししたり考えを押し付けたりせず暮らしやすい」(59.2%)、「人間関係が薄くさびしい」(18.3%)、「人のつながりが強く暮らしやすい」(14.5%)

【横浜に住む理由(MA)】「通勤・通学に便利だから」(38.6%)、「横浜が好きだから」(33.5%)、「自分や家族の持家だから」(23.0%)

【横浜に魅力を感じる場所(LA(3))】「ショッピング施設が充実していて買い物が便利である」(31.3%)、「海や港が近くにある」(27.6%)、「国際的な雰囲気がある」(25.6%)

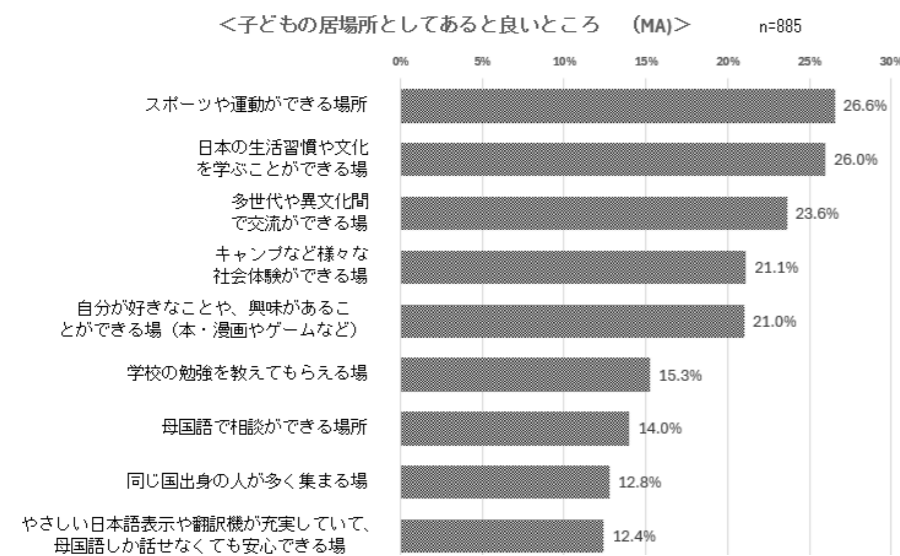
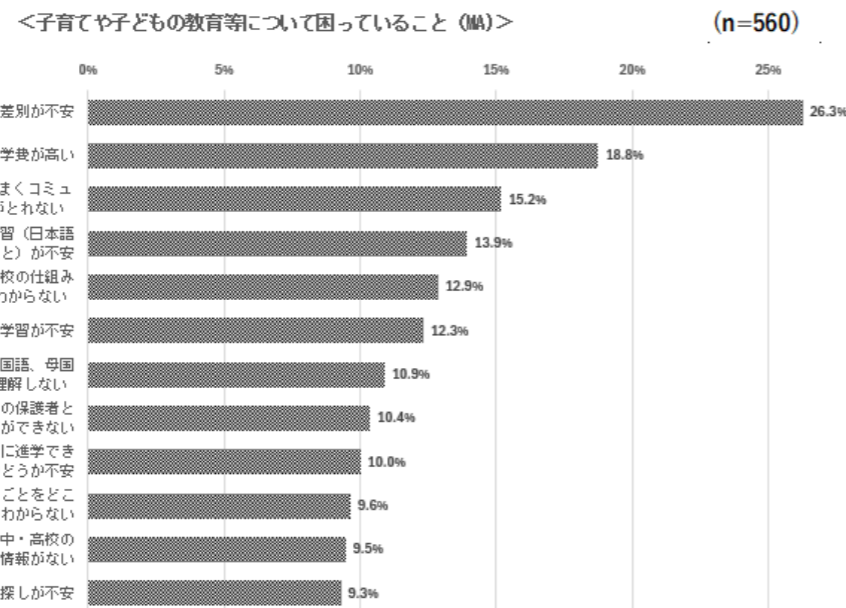


＜横浜の魅力 (LA(3))＞ (n=1,512)



子育て・教育について

- 【0歳～5歳、6歳～14歳、15歳～18歳の子どもの有無(MA)】「0歳～5歳の子どもがいる」は全体の15.1%、「6歳～14歳の子どもがいる」は全体の22.5%、「15歳～18歳の子どもがいる」は全体の8.3%
- 【中学校を卒業した後どのような進路に進ませたいか(SA)】「日本の高校に通学させたい」は全体の81.1%
- 【子どもが学校に通っていない理由(MA)】「子どもは日本語がわからないから」(28.6%)、「日本の教育は自分の子どもには合わないと思うから」(28.6%)
- 【子育てや子どもの教育等について、困っていること(MA)】「いじめや差別が不安」(26.3%)、「学費が高い」(18.8%)、「学校の先生とうまくコミュニケーションがとれない」(15.2%)
- 【子どもの居場所としてどのようなところがあると良いか(MA)】「スポーツや運動ができる場所」(26.6%)。「日本の生活習慣や文化を学ぶことができる場所」(26.0%)、「多世代や異文化間で交流ができる場所」(23.6%)



防災について

- 【地域防災拠点の認知度】「知っているし、場所もわかっている」(38.5%)、「知っているが、場所はわからない」(25.5%)、「知らない」(30.7%)
- 【日頃からの災害への備え】「食べ物や水を準備している」(49.9%)、「天気予報をよく確認している」(41.3%)、「ラジオ、ライトなどを準備している」(20.6%)、「特に何もしていない」(19.8%)

多文化共生について

- 【人権上、特に課題があると思うこと(LA(3))】「意見や行動、文化などが尊重されないこと」(16.7%)、「いわゆるヘイトスピーチなどの差別的な発言や行為を受けること」(16.3%)
- 【日本人にしてほしいこと(MA)】「差別意識を持たないようにしてほしい」(33.5%)、「友達になってほしい」(26.7%)、「地域の行事、イベントなどに外国人が参加しやすい環境をつくってほしい」(25.1%)
- 【地域活動の経験(MA)】「自治会・町内会やPTA」(13.3%)、「公園の掃除や花の世話」(7.5%)、「日本に来たばかりの外国人の支援」(7.3%)。「特になし」は(54.6%)
- 【地域活動のきっかけ(MA)】「日本人から誘われた」(34.4%)、「地域に貢献したかったから」(30.7%)、「自分で始めた」(21.1%)、「時間があったから」(21.1%)
- 【やってみたいと思う地域活動(MA)】「言語を教える」(16.4%)、「通訳・翻訳をする」(15.0%)、「日本に来たばかりの外国人の支援」(14.6%)
- 【地域活動への参加の仕組、サポートの希望(LA(3))】「夜間や休日など、仕事をしていない時間に参加できること」(43.5%)、「日本人からの誘いがあること」(26.7%)

